

10月20日（木）第4回社会教育委員会定例会で協議した内容

【令和4年度 研究大会テーマ】

生涯学習推進のための駅北複合施設のあり方

【協議内容】

- ①生涯学習推進のために、これからも継続すべき機能、その機能を維持するための施設設備について
- ②生涯学習推進のために、今後必要になるとと思われる機能、その機能を維持するための施設設備について

【協議方法】

- ・公民館チーム（グループA）と図書館チーム（グループB）に分かれ、KJ法を取り入れ、協議を図った。

公民館が果たしてきた役割と生涯学習推進に向けた今後のあり方

【アクセス面について】

- ◎多治見駅のような駅通路が必要。駅北の施設なので、行きやすさがないと人は集まらない。

【様々なバリアフリー】

- ◎他市との協力体制を確実にする。
- ◎メンテナンスがしやすいものにする。当初は費用がかかっても、長期間使用することでトータル的には安くなる。

【ホールについて】

- ◎学校行事や一流の演者による演奏会や講演会を実施するためには、収容人数が600人は入る大きさのホールが必要である。

現在も瑞浪市内にある高校の入学式や卒業式、市内の中学校の合唱祭など、多くの学校が発表の場としてホールを活用している。よって、ホールを小さくしてはいけない。

- ◎ホールには、今現在と同様の音響設備、照明、冷暖房を完備する。現在も、多くの団体の芸術発表としてホールが利用されている。
- ◎ホールの稼働率を上げるためにも、席を可動式にして、イベントがない時はオープンスペースとし、作品展示をするなど、活用の幅を広げる。
- ◎誰もが使うことのできるホールにするためには、車いす利用者や難聴者も利用できる工夫が必要である。

【中央公民館としての機能】

- ◎ホールや貸館等、市民が気軽に集まることができる施設にしなければならない。
- ◎明世、土岐、瑞浪の地区公民館としての機能を充実させる
- ◎CSの推進のためにも、3地区の地区公民館として、人的や施設の配置が必要である。
⇒そのために、担当職員と3地区の集落支援員が常置できる場と集会所や相談室のような会議ができる部屋を確保する。
- ⇒3地区の地区公民館としての機能を充実させるために、公民館運営協議会の設置と実施をする必要がある。その協議会の中で年間計画の立案や改善案を熟議することが、3地区のCSの推進に繋がっていく。

【新しい施設機能】

- ◎瑞浪市ならではの特色を前面にだした施設にしなければならない。
⇒陶芸のできる部屋を設置し、陶芸体験等ができるようにする。(陶器のまち、瑞浪のアピールにつなげる。) その際は、陶磁器資料館との兼ね合いを考える必要もある。
- ⇒瑞浪市の情報を発信するスペースを設置する。今までも人が集まらないことの要因として、広報力の弱さがあった。いつ、どんなイベントを行っているのかを広く知ってもらえるように、より一層の工夫が必要である。
- ◎市民の憩いの場、交流や談話がやすいスペースが必要である。
⇒ミニコミュニケーションが図れる場所が必要。
⇒喫茶など、気楽に集まることができる場所が必要。
- ◎現在もリハーサル室の利用が多いことから、多目的スペースの設置は必要である。
そのスペースをヨガ教室や運動等に活用する。
- ◎ボランティア者の部屋を設ける。

【図書館との連携】

- ◎図書館のイベントをホールで行うなど、図書館と連携を取りやすくする。
- ◎図書館との調査と活動の一体化を図る。

【その他】

- ◎文化センターのホールは残す。そうすれば、駅北の複合施設に、調理室や工作室、リハーサル室や研修室など、用途に応じた部屋を多く設定することができる。
- ◎中央公民館の利用料金の設定をどうするのか。

図書館の利用促進に向けた今後のあり方

【アクセス面について】

- ◎ JRを利用している人たちが図書館に行きたくなるように、図書館周辺の整備も必要である。
- ⇒ 直通路は絶対に必要である。駅の改札を抜けたらすぐに駅北複合施設にたどり着くようにしないと、JRを利用している学生も大人も、駅北複合施設を利用しない。
- ⇒ JR中央線の利用者（名古屋⇄中津川）やイベント利用者のための駐車場を確保しなければならない。

【様々なバリアフリー】

- ◎ 誰にでも優しい空間を生み出す必要がある。
- ⇒ 目の不自由な人でも耳の不自由な人でも、図書館で本を読む楽しさを味わうことができるような施設にする。
- ⇒ 学生と市民とが交流できる場と離れて過ごせる場の確保が必要である。

【新しい施設機能】

- ◎ 視察をした大府市の文化の杜は、まさに瑞浪市の駅北複合施設の理想の姿である。
よって、大府市の文化の杜を参考にして、瑞浪市の駅北複合施設を建設するとよい。
- ◎ それぞれの目的に応じたスペースを確保する。
 - ⇒ ① 談話スペースを確保し、テーブルやソファ、椅子をセットする。すぐ近くには自販機も設置し、集う場所になるようにする。
 - ⇒ 集う場所があれば、電車を待つ学生やコミュニティバスを待つ市民など、誰もが気楽に利用することができる。
 - ⇒ ② 学習スペースを確保する。学習スペースは静かで落ち着いた雰囲気の漂うスペースにする。
そのためには、児童書や一般書、談話スペースと分けたスペースにする。
静と動が分離されたスペースを意図的に作り出す必要がある。
 - ⇒ ③ ICTスペースを確保する。
パソコンやタブレット等が自由に利用できるスペースを確保する。
 - ⇒ ④ 廊下にソファを置くなど、休憩専用席を設ける。
 - ⇒ ⑤ その他にも利用に応じて使うことができる部屋を確保する必要がある。

- ◎図書館の貸出、返却や本の検索等、機械化を導入することで、マンパワーをイベント等の企画運営に活用できるようにする。
- ⇒ただし、機械化の導入と並行して、誰もが（特にお年寄り）使用できるような分かりやすい説明や順を知らせる機能を設置する。
- ⇒JRを利用する人が時間外（終電まで）の貸出や返却ができるシステムが必要である。

【図書館でのイベントについて】

- ◎今まで実施されていた各種のイベント、水曜日の読み聞かせ、乳幼児や母子を対象としたイベント等など、さらに充実させる。
- ⇒イベントをしっかりとアピールできる空間を確保する。
- ⇒瑞浪市民に図書館に対する希望や希望するイベント等についてアンケートを実施し、市民の意向を確実に取り入れる。

- ◎図書館内でのミニ展示会や市民の作品展、特集本の展示をさらに充実させる。
- ⇒作品展など作品や本を展示できるスペースを確保する。
- ⇒瑞浪の偉い人を紹介するコーナーや地域アーカイブの充実など、瑞浪市のよさや特色をアピールできる場を設定する。瑞浪市らしさが前面にでる、入っただけで瑞浪市の図書館だということがわかると展示スペースを設ける。

【その他】

- ◎市民を取り込んだ活動や運営を充実させる。
- ⇒市民が参加できるボランティア活動や運営を計画し実施する。
- ⇒図書館での行事に学生ボランティアが参加できるシステムを構築する。
- ⇒中・高校生の職場体験など、図書館の仕事を体験させることで、その仕事への憧れをもつことができるようにする。そうすることで、図書館の利用率が上がっていく。
- ⇒小学生等の体験学習の場を多く設定する。図書館での体験学習が充実していれば、どんどん図書館に来て参加しようという流れができる。
- ⇒リサイクル本の取り扱いができるようにする。SDGSを意識した活動を充実させる。